

日常の点検・お手入れガイド

MORITA TOKYO MFG. CORP.

MENT, 01B, 05.11. TO

警告

本ガイドは、日常の点検やお手入れ方法の一部を抜粋したものです。詳しくは各製品に付属の取扱説明書に従って、適切な処置を行なって下さい。

お手入れ・清掃の際は、チェアユニットのメインスイッチをOFFにし、感染予防のため必ずゴム手袋を着用して下さい。

1. ハンドピース<エアータービン、モーターアタッチメント>の点検

1日1回以上、ご使用前に

ヘッドキャップの確認

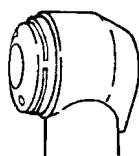
固定ネジやキャップネジがゆるんでいないか確認します。

<ヘッド形状例>

固定ネジ付きタービン
<ツインパワー・
Zシリーズなど>



キャップネジ式タービン
<スーパーカスタム
シリーズなど>



切削工具(バー・ポイントなど)の確認

長さや径が合わない・端面が角張り・表面に傷や溝・変形・さびなどの異常がない、適正なものを使用します。

接続の確認

本体(チューブ・ジョイント・モーターなど)に正しく接続できるか確認します。

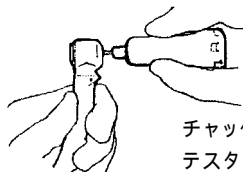
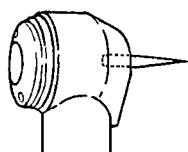


チャック保持力の確認

切削工具をチャック奥まで挿入し、確実に保持されているか確認します。

チャック保持力テスター付属機種は、テスターを利用して下さい。

軽く引いて
抜けないこと



チャック保持力
テスター

回転・注水の確認

回転させ、異音・振動・発熱・注水詰まり・ライト切れなどが無いか確認します。

2. ハンドピース<エアータービン、モーターアタッチメント>の洗浄給油

1日2回以上、診療後に

切削粉の清掃

ハンドピースを外し、切削工具を抜いて、ヘッド周囲に付着した切削粉をブラシなどで清掃します。



内部の洗浄と給油

専用スプレーのノズルをハンドピース接続部に差し込んで、洗浄・給油を行います。

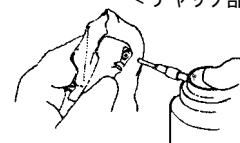
注意 洗浄・給油は、必ず各機種指定の専用スプレーを使用し、定められた手順に従って下さい。混用は故障の原因となります。

チャック部の洗浄・給油が必要な機種は、専用スプレーのノズル先端をバー挿入口に差し込んで同様に行ないます。ヘッド部をガーゼで覆いスプレーして下さい。

スプレーノズルを挿入



<チャック部>



スプレー液の除去

内部に残ったスプレー液を除去します。それぞれ定められた手順に従って下さい。

<エアータービン>

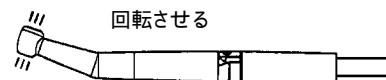
ハンドピースをチューブ・ジョイントに接続し、回転させて余分な液を吹き飛ばした後ガーゼで拭き取ります。

<モーターアタッチメント>

スリーウェイシリンジの先端に付属のエアノズルを取り付け、ハンドピース接続部に差し込んでエアを20~30秒送り込みます。余分な液を吹き飛ばした後ガーゼで拭き取ります。

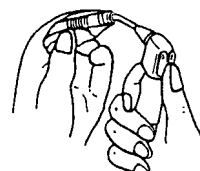
<エアータービン>

回転させる



<モーターアタッチメント>

3WAYを利用



3. ハンドピース及び各部の滅菌・消毒 1日1回以上、診療後に

オートクレーブ滅菌

各対応温度内で滅菌を行ない
ます。あらかじめ対応部位・
方法を確認して下さい。

滅菌対応ハンドピースには表
示があります。(右図参照)切
削工具を抜き、専用スプレー
で洗浄・給油を行なってから
滅菌して下さい。

<滅菌表示例>

135

135°C


注意 乾燥工程は避
けて下さい。
故障の原因と
なります。

アルコール消毒

あらかじめ対応部位を確認して下
さい。

消毒用アルコールを少量含ませた
ガーゼで、表面を拭き取ります。
ハンドピースや機器の内部にアル
コールが入らないよう注意して下
さい。

消毒用アルコールで
払拭

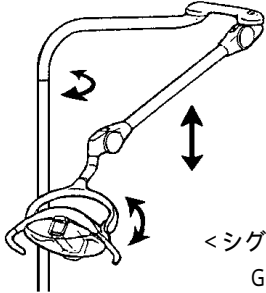
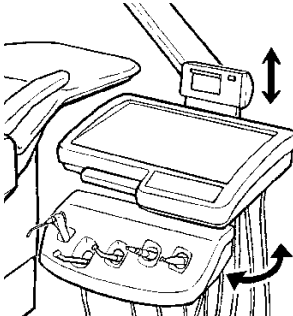


4. チェアーユニットの点検 1日1回以上、ご使用前に

ガタつき・ゆるみの確認

本体(チェアー)・ライト・
アーム・ユニット・シート・
インストルメントホルダーなど
にガタつきやゆるみがないか確
認します。

問題のある部位は、締め付けや
調整を行なって下さい。

<シグナタイプ
G30の例>

周辺の確認

本体(チェアー)周辺や、
シート下などに作動の妨
げになるものがないか確
認します。

周辺に十分なゆとりを持
ち、障害物がある場合は
取り除いて下さい。

給排水・エア漏れの確認

本体(チェアー)・ユニット・配管ピット・除菌フィルタ
ーケースなどに水漏れの痕跡やエアの漏れる音など異常が
ないか確認します。

問題のある部位は正しい接続を行ない、修復・交換の必要
な場合は電源プラグを抜き、給水・エアの供給を止めて
ご購入店もしくは最寄りのモリタまでご相談下さい。

電源の確認


電源コード・電源プラグ・アース線・コンセントなどに断線・
接続不良・ホコリの付着など異常がないか確認します。

問題のある部位は正しい接続を行ない、ホコリは除去して下
さい。修復・交換の必要な場合は電源プラグを抜き、給水・エ
アの供給を止めてご購入店もしくは最寄りのモリタまでご相談
下さい。

5. バキューム回路の洗浄 1日1回以上、各患者の診療終了ごとに

メインスイッチをONにします。

バキュームシリンジ・サライバエジェク
ターをホルダーより取り上げ、それぞれ
コップ1~2杯程度の水を吸引させます。

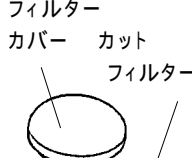


バキュームシリンジ・サライバエジェク
ターをホルダーに戻します。

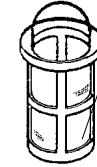
6. バキューム用カットフィルターの洗浄 1日1回以上、診療後に

ユニット内のカットフィルターケースから
カットフィルターを取り出します。

フィルターカバー裏側のフックにフィルタ
ー上部のワイヤーを引っ掛け、ぶら下げた状態
で引き上げて下さい。

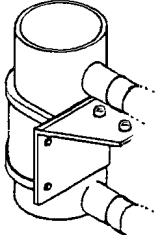


カットフィルター・フィルターカバーを流
水で洗浄します。



これまでと逆の手順でカットフィルターを
戻し、フィルターカバーをしっかりとめ込
みます。

フィルターカバー側面のOリング周辺にワセ
リンを塗布すると、はめやすくなります。




注意 フィルターカバーはまっすぐ確
実にめ込んで下さい。不充
分ですと、吸引性能低下や故
障の原因となります。

フィルターケース
<シグナタイプ
G30の例>

7. ベースン部フィルターの洗浄 1日1回以上、診療後など

ベースン鉢内の防塵器を外し、排水口か
らフィルターを取り出します。



防塵器・フィルターを流水で洗浄しま
す。

これまでと逆の手順でフィルターを戻
し、防塵器を配置します。

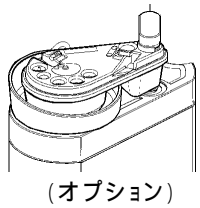
<シグナタイプ
G30の例>

8. 残留水の排出（フラッシング）

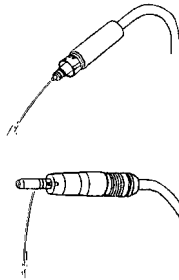
1日1回、診療前に

メインスイッチをONにします。

<フラッシング装置を装備の場合>
フラッシングボウルをセットして各チューブを接続し、自動排出を行ないます。
定められた手順に従って下さい。



<手で排出を行なう場合>
オートフィルター(1分) スリーウェイシリンジ(1分) タービン(1分) モーター(2分) 超音波スクレーラー(3分)の順で注水を行ない、本体内の残留水を排出させます。()内は排出に必要な時間の目安です。
定められた手順に従って下さい。



9. バキューム用カットフィルターケースの洗浄

週1回以上、診療後に

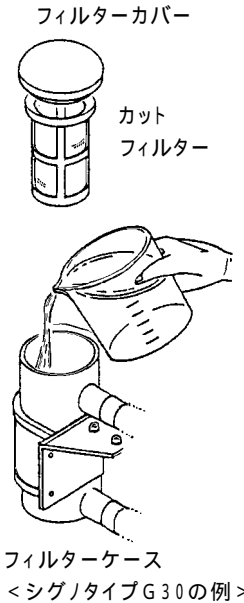
*項目6.を合わせて参照下さい。

項目6.と同じ手順でユニット内のカットフィルターケースからカットフィルターを取り出します。

カットフィルターケース内にピーカーなどで水を注ぎ、洗浄します。
ケースから水があふれないよう、少しづつ注いで下さい。

これまでと逆の手順でカットフィルターを戻し、フィルターカバーをしっかりとめ込みます。

メインスイッチをONにしてバキュームシリンジを吸引させます。



10. バキュームタンクの自動洗浄

1日数回

・点検・清掃

1ヶ月ごとに

<バキュームタンク自動洗浄装置の場合>

1日数回(各患者の診療終了ごとに)操作パネルのスタートスイッチを押して、自動洗浄を行ないます。

自動洗浄終了後は、ベースン鉢にコップ2杯程度の水を流して下さい。

1ヶ月に1回タンクを分解して内部を確認し、汚れている場合は清掃します。
汚れが目立たない場合でも6ヶ月に1回はタンクの分解清掃を行なって下さい。
分解・清掃手順は以下 ~ に従って下さい。

<バキュームタンク仕様(自動洗浄なし)の場合>

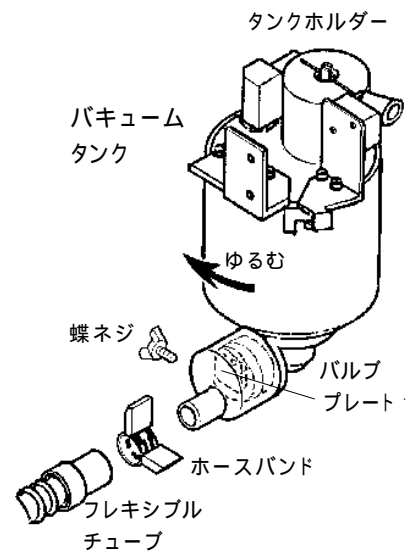
1ヶ月に1回以上、タンク内の分解清掃を行ないます。

ユニット内のタンクを回してタンクホルダーから外し、フレキシブルチューブとホースバンドを外して流水で洗浄します。

タンク下部の蝶ネジをゆるめ、内部のバルブプレートも同様に洗浄して下さい。

(バルブプレートは取付方向に注意)

外したタンクを元通りに取り付けます。管路から水漏れがないよう確認して下さい。



<シグタイプG30の例>

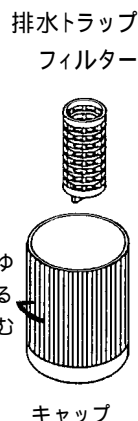
11. 排水トラップの清掃

1ヶ月ごとに

ユニット底部のキャップをゆるめて取り外し、内側からフィルターを引き抜きます。

キャップ・フィルターを流水で洗浄します。

外したキャップ・フィルターを元通りに取り付けます。
キャップから漏れがないよう確認して下さい。



12. 排油フィルターの確認・清掃

1ヶ月ごとに

テーブル裏面のフィルターケース内を確認します。

排液が溜まっている場合は、清掃します。

ケース上部(フタ)をおさえながらケース本体を回してゆるめ、取り外します。

フィルターとケース上部を外します。

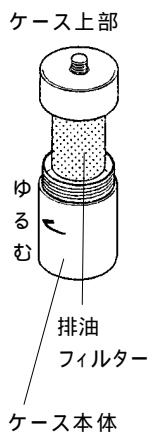
フィルターを回してゆるめて下さい。

ケース・フィルターを流水で洗浄します。

エアタービンの排気状況を確認します。

タービンを接続して回転させ、フィルター支柱の通気口からエアが排出されるか確認して下さい。

外したケース・フィルターを元通りに取り付けます。



13. 除菌フィルター・フィルター ケースの交換 (1年ごとに)

<ステラポア-M装備の場合>
フィルター・ケースは同時交換

配管ピットのピットカバーを外し、エア元コックと給水元バルブを閉じます。

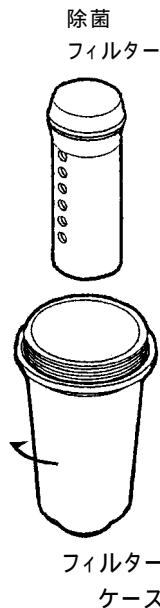
スリーウェイシリンジから水・エアを噴出させ、本体管路の内部圧を抜きます。

フィルターケースを持ってゆるむ方向へ回し、外します。
給水側ケース内には水が充満しており、ホルダーからも水滴が落ちるのであらかじめ雑巾などを用意して下さい。

各除菌フィルターを抜き、新品のフィルターと差し替えます。

これまでと逆の手順で新品のフィルターケースを取り付け、エア元コックと給水元バルブを開けます。

スリーウェイシリンジから水・エアを噴出させ、接続の確認と混入エアの排出を行いません。

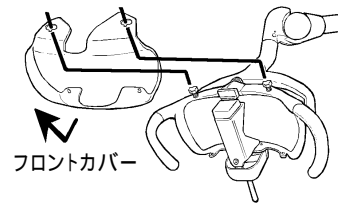


14. ルナビューEDライトの清拭・清掃 (随時)

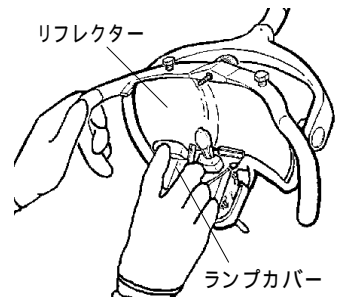
⚠注意

ライトヘッド内部の清掃を行なう際は消灯直後を避け、一定時間放置してから行なって下さい。
高温のため、やけどなど事故の原因となります。

<リフレクターの清拭>
ネジを緩めてフロントカバーを外し、中央のランプカバーを開けます。

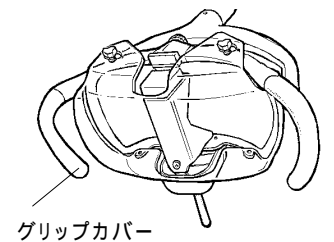


コーティング面(内側)・裏面とも消毒用アルコールを少量含ませたガーゼで、表面を拭き取ります。ハロゲンランプに触れないよう注意し、コーティング面は強くこすらないで下さい。



これまでと逆の手順でランプカバーとフロントカバーを元の状態に戻します。

<その他各部の清拭・清掃>
消毒用アルコールを少量含ませたガーゼで、表面を拭き取ります。フロントカバーは表面を傷つけないよう注意して下さい。

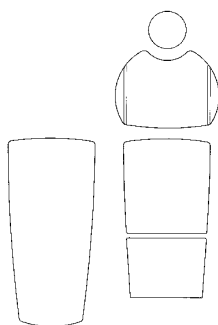


グリップカバーは取り外してオートクレーブ滅菌が可能です。定められた手順に従って下さい。

15. レザーシートの清掃 (随時)

水または中性洗剤を柔らかい布などに含ませて、拭き取して下さい。

乾いた布などで乾拭きを行ない、水分や洗剤分が残らないようにします。



16. 各部の清掃 (随時)

⚠警告

清掃の際は表面や内部に水分・洗剤分が残らないようにして下さい。また、メインスイッチなど電気部品に直接水がかからないようにして下さい。

水または中性洗剤を柔らかい布などに含ませて、拭き取して下さい。

乾いた布などで乾拭きを行ない、水分や洗剤分が残らないようにします。

修理のご依頼・消耗部品の御注文など、ご購入店もしくは最寄りのモリタまでお問い合わせ下さい。
日常のお手入れ・点検以外に、6ヶ月ごとの定期保守点検を行なって下さい。
ハンドピースなど各製品につきましては、それぞれ付属の取扱説明書に定められた手順に従って下さい。

発売 株式会社モリタ

東京本社 〒110-8513

東京都台東区上野2丁目11番15号 TEL(03)3834-6161

大阪本社 〒564-8650

大阪府吹田市垂水町3丁目33番18号 TEL(06)6380-2525

チェアユニットSIGNOシリーズ・ACTUSシリーズ

製造販売 株式会社モリタ東京製作所

本社工場 〒338-8538

埼玉県さいたま市中央区上落合2丁目1番24号

TEL(048)852-1315